研究ノート

福岡県遠賀郡の金石文集成　一　中間市、水巻町篇

中村修身

はじめに

先に北九州市の金石文集成を行ったが、それに引き続き旧遠賀郡（中間市、水巻町、遠賀町、岡垣町、芦屋町）の金石文集成を行おうこととした。まず、中間市、水巻町の金石文から報告することにしたい。なお、集成は原則として江戸時代末までとした。

調査途中で中間市教育委員会が所蔵している故船津常人氏が集成した金石文資料を拝見する機会を得た。その資料は大変正確でかつ今回調査段階で原物が確認できないものが多数含まれた貴重な資料である。一部、これを基とさせていただいた。氏は中間市歴史民俗資料館運営委員長や中間市文化財調査委員長を務めるなど文化財・地方史に大変造詣の深い方であった。筆者も御指導いただいた。

資料の紹介にあたっては、物件ごとに、銘文の書かれている物件、その現所在地、銘の書かれている部分そして銘文の順に記し、各物件の紹介の後にそれぞれに対する雑記を加えた。

多くの資料で判読に難渋したが、今後の歴史研究の一助となればと思い史学論叢に発表する場の提供をお願いし、ここに発表するものである。発表の場を御提供いただいた別府大学史学関係の諸先生、いろいろと情報を提供いただいた中間市教育委員会のみなさん、貴重な御物や文化財を快く触れさせていただいた関係者の方々に深く感謝の意を表したい。

中間市篇

1　八王子社経筒　中間市宮林・孤背戸山

宗形宮

帝賢寺

右爲滅罪生善之住僧琳慶筒一口事

保延五年歳次己未所供養如件

十一月五日壬午

雑記　総社神社に伝世保管されていたが、今は個人所蔵となっている。『波多野家文書』に「享保十四年九月、八王子より今の孤背戸山に移し奉石の宝殿建立のとき、山の頂き飯を盛しごとく、いと嶮岨なれハ、地を開き鑿る事五尺余、石殿の真下より唐銅の筒を堀出せり、土中此まま埋れしと也」と記し、さらに右記銘文を記している。源順編『和名類聚抄』により、遠賀郡宗像郷の存在を知ることができる。

2　地蔵菩薩像　中間市上底井野御畑　正覚寺

台座右面

宝永六己丑年

村中

建立　　世話人
吉永又兵衛
香田喜三郎
小田□□□

正面
□□□
□□□□□
世界□□
□清□□□
□人□□

左面
長州赤間関
石工
安田右□□□

裏面
享和二壬戌年
再建世話人
早川喜三右衛門宗貞

3　庚申聰堂　中間市朝霧三丁目　朝霧神社

右面
正徳四甲午年
八月十一日

正面
庚申　聰堂

左面
淺霧
通谷　中

雑記　昔、集落から朝霧神社に持ち込まれたものと聞く。

4　篠隈大明神鳥居　中間市中央一丁目　篠隈神社

右柱
奉建立神門一結岡縣中間邑産民等

正面額
篠隈大明神

左柱
享保弐祀仲酉月　大宮司波多野□□□□

雑記　江戸時代は行政区として縣は使っていないので、宗教的な使用である。

5　月瀬神社鳥居　中間市上底井野字広兼　月瀬神社

右柱
奉建立石神門一基　産子中

正面額
月瀬神社

左柱
享保二丁酉年九月吉辰　大宮司佐野讃岐守藤原正次

6　鳥居　中間市中央一丁目　総社神社

右柱
鳥居一宇中間邑産徒謹奉建立
正面額
□□大明神
左柱
享保三年戊戌歳九月二十日祠官伊藤出羽守善信

7　中間唐戸の表戸　中間市中間二丁目4　堀川唐戸
表戸
寶暦十二壬午歳

雑記　この年号は仲間唐戸の完成時を示すと考えられる。なお、建物基礎関連石垣に「〇下二」の文字が彫られている。現在の水巻町下二を指すと思われる。

8　水盤　中間市下大熊字村前　十五社神社
明和二乙酉天
奉寄進
二月廿五日
小南□□

9　八幡宮鳥居　中間市埴生四二四　埴生神社
右柱
奉獻石神門一区岡縣埴生郷
惣産徒中
正面額
八幡宮
左柱
維時安永七龍次戊戌春三月穀旦
大宮司千々和日向守橘重昌

雑記　二の鳥居である。江戸時代行政区画として縣制をとっていないので、宗教的記載例である。

10　猿田彦命　中間市埴生　猿田彦神社（唐の松神社）
右面
寛政四壬子天
閏仲春吉辰村中
正面
再興
猿田彦命

11　水盤　中間市中底井野字柏　八剣神社
寛政五年
丑九月□□
柴田太兵衛

12　八剣大神鳥居　中間市中底井野字柏　八剣神社
右柱
奉□□石鳥居区　氏子中

正面額
八劔大神
左柱
寛□六□□三月吉日

13　庚申尊天　中間市中底井野字柏　八劍神社
右面
寛政八辰四月□日
正面
庚申尊天

雑記　平成二十四年三月時点で原物が確認できない。銘文は船津常人氏調査資料を基とした。

14　天満宮鳥居　中間市上底井野字広兼　月瀬神社
右柱
奉再建石鳥居區
願主藤田源八治庸
同　源□□□
正面額
天満宮
左柱
大宮司従五位
波田野伊豫守藤原朝臣政幸
寛政十年入戌午□八月吉

15　一石一字塔　中間市岩瀬西町　祇園社
文化六巳年保正伊藤武作建之
浄土三部妙典一時一石塔
村中為死亡追善

16　水盤　中間市岩瀬西町　恩光寺
文政元寅□
六月
施主　□田□□

雑記　平成二十四年一月時点で、原物は確認できない。銘文は船津常人氏調査資料を基とした。

17　灯塔　中間市上底井野字広兼　月瀬神社
右側右面
文政三年庚寅
四月吉日
正面
式日獻燈
裏面
一田喜□□
左側右面
文政七年□□
五月
正面

式日獻燈
裏面
島津伊右衛門

雑記　平成二十六年六月時点で原物の確認ができない。銘文は船津常人氏調査資料を基とした。

18　水盤　中間市大辻町　大歳神社
右面
□政十二年十月吉日
正面
奉獻
左面
藤崎佐助

19　灯塔（一対）　中間市上底井野字御畑　蓮光寺
右側柱右面
文政十二年十二月
施主　船津七助
正面
式日燈

雑記　平成二十七年一月時点、原物は確認できない。銘文は船津常人氏調査資料を基とした。同資料によると、左側塔にも同様の銘あり。

20　伊藤彦右衛門祐信墓誌　中間市岩瀬西　恩光寺
伊藤彦右衛門名祐信岡縣岩瀬村人
父世村申至信勧農桑温柔謹素出於
天性文化壬申十二月五日國府以父
老故使信纘前緒時年三十九愛敬切
自得衆庶之心丙戌之冬十一月府下
書嘉之日乃之慎也毎
公述職宿乃家觀乃行於是許乃以路
傍相見天保元年庚寅八月念三日病
卒在任十九年春秋五十七葬金幢山
寺今茲丙申叟其徒將立石謁余為
銘誼不可辭銘日
何彼蔚矣　伊藤之枝
君子所愛　児孫所思

雑記　平成二十五年四月時点で原物が確認できない。銘文は一部船津常人氏調査資料を参考とした。銘文中の岡縣はこの時代の行政区画としてはないが、遠賀郡を指している。

21　狛犬（一対）　中間市上底井野字広兼　月瀬神社
右側台石右面
天保三年壬辰
正月吉日建
正面
奉獻〔横書き〕

左面
大宮司従五位下
　佐野出雲守藤原朝臣正範
裏面
願主
小田清七郎義旦
左側台石右面
村中安全
正面
奉獻〔横書き〕
裏面
願主
　小田清三郎義廣
　小田清四郎義安

22　水盤　中間市埴生四二四　埴生神社
天保四年
　正月
奉獻〔横書き〕
保正
　□育□□
土師□五郎
　武□

23　狛犬（一対）　中間市下大隈字村前　十五社神社
右側台石右面
石井仁左エ門　有田貞七　日高七平
〔原文人名横一列〕
正面
吉永喜朗　同　喜助　渡邊喜十　同　源平
日高□平　坂口春山　〔ここまで原文人名横一列〕
天保四年
裏面
大宮司
　従五位下橘朝臣重利
　世話人
　　占部藤七
　　日高源助
　　安村□作
左側台石正面
癸己正月吉日
保正
　吉田新九郎　松本忠右エ門　吉田義三郎
　石井彌十　武谷次七　山内利平　〔原文人名横一列〕
左面
　同茂郎　小南九平　同　平一　有田徳蔵
〔原文人名横一列〕
裏面
石井政右エ門　雅本仁右エ門　久枝彌助

小南九蔵　〔ここまで原文人名横一列〕
世話人
渡邊利三次
石工
占部勘十
雑記　下大隈は江戸時代まで鞍手郡である。

24　神鏡　中間市上底井野字広兼　月瀬神社
神鏡　奉寄進　国主
八幡大菩薩　筑前侍従源朝臣忠之公ノ臣
御宝前　津田市之丞平朝臣茂貞
天保四年　御鏡屋　清水丹後光正
雑記　右銘文が書かれた神鏡は、昭和五十一年に新しい神鏡と取り替えられ、神殿奥に格納されていると聞く。右銘文は『中間市史上巻』によった。なお、筑前侍従源朝臣忠之は承應三年二月十二日に死去している。

25　弘法大師像　中間市上底井野　正覚寺
台座右面
天保十三
寅七月吉辰
邑里安全
正面
俗名小田弥右衛門利宣
黒査院一空元真居士
白蓮院寂空静貞大姉
小田弥右衛□□□
左面
先祖代々
右為菩提
裏面
小田弥右衛門利宣一孫子
大庄屋格
直方町小田□十郎茂房
大保正□□□□□□
大保正庄野卯右衛門直和七十
同性清七郎義□□
同二孫子
豊前田川郡市津村保正
長谷川寅平清□□□□

26　祇園宮鳥居　中間市岩瀬西町六丁目15　祇園社
右柱
當村住
奉再建神門一基　楠橋村庄屋大庄屋格
願主　伊藤彦六祐生
宝暦四申戌仲冬穀旦祖者伊藤
武作石神門建立文政十一子秋為

大風預轉今新再建者也

正面額

祇園宮

左柱

大宮司

山崎近江正藤原定成

弘化三年丙午三月良辰　願主　當村庄屋　伊藤武作祐宜

雑記　伊藤彦六は笹田川および堀川に治水堤防構築を指導した人物である。

27　水盤　中間市上底井野　薬師堂

弘化四丁九月

献

小田清七郎義廣

28　伊藤彦六碑　八幡西区楠橋　広畑八幡神社

天保辛卯之春　郡宰擢遠賀郡岩瀬村豪農伊藤彦六　為楠橋村長　彦六能識乎田里休戚之實　生霊向背之情　以佚道使民　鑿巨嵓決汚潴　以診鞍手郡岡森堰之水脈　營石閘辟陰竇　以燮理乾旱水溢　於是虜　汗邪甌窶變為腰田　嘉禾豐穣殆百町　日攣　日尾原　日結桶　日前田　日高江　日洗越　日内黒川　日井手原　加之植木於古野　預供薪材之用　撒金於窮民　措置兼並之田　興神祠之廢　諭孝弟之道　故游手徒食之徒　革面力農　天保丙申之歉　周急卹匱　爾來村民安堵　皆彦六之力也　噫　彦六盡心農政　盖十有七年于此矣　郡宰屢賞功　村民服徳　弘化丁未之夏村民欲鐫其功徳于碑以傳不汚焉　懇祈之余　余固樂道人之善　因作文孟子日　善教得民心矣　彦六其庶幾也

雑記　当碑は昭和二年に遠賀郡香月村丸山から当地に移した。その後に昭和四年十二月に碑は新しく造り替えられている。右銘文は、弘化丁未之夏の碑（銘文）を収録したと思われる昭和四年発刊『福岡県碑誌筑前之部』を写した。当碑は八幡西区に収めるべきだが、見落としていたことと、伊藤彦六に関することなどでここに収めた。

29　水盤　中間市中央五丁目　法専寺

右面

嘉永三戊年

三月穀旦

正面

霖垢盤〔横書き〕

左面

供慈父追□

津田武作

30　水盤　中間市中央一丁目　総社神社

右面

嘉永六年

癸丑正月吉日

正面

奉獻〔横書き〕

左面
大宮司従五位下
伊藤伊賀守道保
裏面
直方町
岡田養軒
頓埜村里正大保正格
松尾宋蔵
木屋瀬村保正
松尾正治郎
笹田村
香月與三郎
當村
岡田善三郎
同
岩嵜太助

31　灯塔　中間市上底井野字広兼　月瀬神社
柱右面
嘉永六年
柱正面
式日燈
台座正面
庄屋
柴田和平
小林大作
□□勝次
柱左面
癸丑正月吉日
台座左面
花田弥八
一田□□
藤田□七
小田佐平
北村茂平
台座裏面
石橋□七
島□□□
□□

雑記　現在、銘文はほとんど読めないので、銘文は船津常人氏調査資料を参考とした。

32　狛犬（一対）中間市中底井野字柏　八剱神社
右側右面
安政二年歳在
乙卯九月吉辰
正面
奉獻〔横書き〕
左面
庄屋
大庄屋格
嶺久次昌英
普請方

柴田和平□信
芦屋村
森正平守貞
裏面
世話人
秦田茂□
石工
占部勘十□矩
左側右面
組頭
大八木甚右衛門直次
柴田五右衛門近義
森市平良直
大八木治右衛門直徳
正面
奉獻〔横書き〕
左面
安政二年歳在
乙卯九月吉辰
裏面
大宮司従五位下
佐野伯耆守正興
頭取政里
二村正安義矩
松浦文恭竪敏
大八木多六直之
柴田□三郎興榮

33　朝霧社鳥居　中間市朝霧三丁目　朝霧神社

右柱
奉再建鳥居安政六年未十月吉日
願主　産子中
正面額
朝霧社
左柱
大庄屋仰木廣影
大宮司従五位下　伊藤伊賀守藤原朝臣道保
庄屋大庄屋格嶺要一郎昌夫

雑記　平成二十九年一月の時点で、原物の確認ができない。銘文は船津常人氏調査資料を基とした。

34　灯塔　中間市中央一丁目　総社神社

右面
岩津孫二郎重親
正面
獻□
左面
安政六年末九月
裏面

石工
津田源十

35狛犬（一対）中間市中央一丁目　総社神社

右側台石正面
奉

左面
高野□□□
村中為□□
家運□□

裏面
大宮司従五位下
伊藤伊賀守
藤原朝臣道信
謹而誌

左側台石正面
獻

左面
下大隈村石工
占部勘十郎
重久

裏面
先庄屋養父故
林藤五郎清久
祝願遺言之依
旨趣村中豊饒
家運為永昌
奉建立者也

右面
林源善貫
同次郎兵衛善□
蔓延元年
申九月吉日

36　灯塔　中間市蓮花寺三丁目　光林寺

左面
蔓延二年酉□月

正面
建夜登火

裏面
八十三翁
岩崎宗祐

雑記　蔓延二年は二月十九日までである。平成二十六年段階で原物は確認できない。銘文は船津常人氏調査資料を基にした。

37　灯塔（一対）中間市上底井野字広兼　月瀬神社

柱正面
式日燈

台座正面
□□硯山　□□源治郎　小田和十
□藤與吉　□角作平　〔原文人名横一列〕

柱左面　　台座左面
慶応元年　　三角弥平　　中村又市　　内田重蔵
□田茂助　　□津伊兵衛〔原文人名横一列〕

雑記　一基は崩壊して読めない。

38　旗柱（一対）　中間市上底井野字広兼　月瀬神社

正面
献　若中老

裏面
慶應三丁卯八月吉日

雑記　他の一基にも同じ銘が彫られている。

39　小田宅子墓　中間市上底井野　共同墓地

表面
松樹鶴空抄千大姉

裏面
大姉俗名宅子小田弥右衛門
女養飯塚驛太田氏清七義旦
娶之為嗣子則生毀子家益富
為ニ家少容姿艶□□和歌

右面
□題佛乗詣善光寺撰東日記
修身晨春禮誦無怠明治三年
庚午二月廿九日卒享年八十

二

雑記　『東路日記』著者の墓である。なお、墓碑は『東日記』となっている。

水巻町篇

1　八剣神社随神像　水巻町立屋敷（たてやしき）　八剣神社所蔵

寛正二年□□
願主榊□

雑記　現在は水巻町歴史資料館に保管されている。

2　八剣大明神鳥居　水巻町立屋敷三丁目13　八剣神社

右柱
奉寄進廣渡村　氏子
立屋敷村
廣渡村庄屋柴田源次郎

正面額
八剣大明神

左柱
元禄十二己卯秋　願主　柴田加右衛門　敬白
祝人　松本因幡守
立屋敷村庄屋入江茂七

3　猿田彦大神　水巻町猪熊四丁目8　道端

正徳三癸巳天

猿田彦大神

九月朔日

4　興玉神猨田彦大神聰堂　水巻町二東（ふたひがし）二丁目12　道端

正面

興玉神猨田彦大神聰堂

裏面

享保六（辛丑）年

二村若者中

5　一田久作墓誌　水巻町吉田　一田家墓地

□□姓一田　諱直好　俗號久作　筑州遠賀郡底井野人也　明和九年　歳建壬辰秋七月初八日卒　卽葬于車却里峡頭　法號薫芳儀性　享年四十五

先是　遠賀郡河東九村　頻年洪水　于時郡監令神崎某　以寛延三年乃奉公命治水也　久作以算數助焉　鑿山川送水　又命久作使平水土維其勉之　亡幾神崎其卒　後郡監令嶋井増廉　乃憂大功未終　而亦爲治水之事　久作亦云　同郡中間村落有唐戸　蓋試之則有功耳　郡監令許諾　自寛延三年　至寶暦十二年　治水功始就矣　井田數千町畜水之利　嗚呼雖禹之功無敢過矣　貢獻轉漕□　通船都城不少凝滞也　久作鑿石導水致力于溝洫　其功為大矣　遂令久作司新水　卒後其子思念之深矣　因乞余令作墓誌云

藩臣　田穀邦　誌焉

雑記　原物の確認ができなかったので『福岡県碑誌筑前之部』を写した。田穀邦は『福岡県碑誌筑前之部』目次では八田穀邦となっている。本来の位置は、河守神社裏山説もあるが、墓誌となっているので一田家墓地説を取った。

6　貴船社鳥居　水巻町頃末北二丁目9　伊豆神社

右柱

安永三紀

正面額

伊豆社

左柱

□□十二月日

7　河守大神鳥居　水巻町吉田東三丁目1　河守神社

右柱

寛政八丙辰八月穀旦

正面額

河守大神

左柱

堀川水下十六村建立

雑記　堀川の守護神である。

8　貴船社鳥居　水巻町頃末北二丁目9　伊豆神社

右柱

享和三癸亥年八月日

正面額
貴船社

左柱
保正　三作敏忠
同　村中

9　八所神社鳥居　水巻町二西四丁目1　八所神社

右柱
奉造立鳥居一區願主二村寄衆等

正面額
八所神社

左柱
文化四年歳在丁卯四月穀旦

10　水盤　水巻町立屋敷三丁目13　八剣神社

右面
大宮司
□□顕太夫

正面
獻
願主連名
鞍手郡植木村
阿部次右衛門
阿部大右衛門
阿部吉兵□□
同郡木屋瀬□
高野新四郎
香月孫助喜
當郡□□□
伊藤□□□
藤原□衛門
文政七□□

11　狛犬（一対）　水巻町立屋敷三丁目13　八剣神社

右側台石右面
天保二辛卯二月

正面
郡宗社保食宮
筑洲総鎮守　大前
御牧社馬野宮

裏面
願主木守村大庄屋
小林弥一郎成久
同中底井野村大庄屋
船津文四郎則行
同山鹿浦大庄屋
秋枝勘介廣明

左側台石正面
郡宗社保食宮

筑洲総鎮守　大前
御牧社馬野宮
裏面
奉社大宮司
　松本郡頭太夫久蔭
願主上々津役村大庄屋
　井良原文三郎信英
同蜑住村大庄屋
　松井正五郎堯□

12　灯塔（一対）　水巻町立屋敷三丁目13　八剣神社
右塔右面
遠賀大宮司
　松本□頭太末久陰
正面
遠鞍　同郡觸祈願所
総社
左面
願主下底伊野村大庄屋
　有吉長平直徳
裏面
天保三年壬辰十一月
左塔右面
願主大庄屋格藤木村庄屋
　副田太次平永勝

正面
同郡觸祈願所
左面
大宮司五穀成就之□
　松本郡頭大夫久藤
裏面
天保三年壬辰二月

13　灯塔（一対）　水巻町二西四丁目1　八所神社
右側塔正面
弘化二年
左面
奉
裏面
長崎酒屋町
□奥□久助
左側塔右面
獻
正面
丙午九月
□□村□□
吉田村□□

14　敷石寄贈碑　水巻町立屋敷三丁目13　八剣神社
右面

□□神社前敷石
正面
願主□□久助守安
裏面
□□三歳丙午夏六月

雑記　説明板によると、年号は弘化三年である。

15　灯塔（一対）　水巻町猪熊四丁目5　鷹見神社
右側塔右面
弘化三丙午年九月吉日
左面
奉寄進
裏面
再建　大場清七定房

雑記　他の一基にも同じ銘が刻まれている。

16　旗柱　水巻町二西四丁目1　八所神社
正面
弘化四年
裏面
□當村若中

雑記　當村は二村のことである。

17　狛犬（一対）　水巻町吉田東四丁目5　貴船神社
右側台石右面
松崎善次郎　山木孫市　添田又次郎　小田半吉
佐賀久五郎　安部忠平　〔この面原文人名横一列〕
正面
奉
左面
大宮司□□□□守
裏面
添田幾次郎　藤崎與三郎　添田和太七　添田作七
添田恵吉　添田儀四郎　白石七次郎　白石甚助
岡部兵七　岡部儀平　〔この面原文人名横一列〕
左側台石右面
弘化四年丁未二月吉日
正面
獻
裏面
添田又□丞　□□□□　白石□□門　白石□吉
白石□治郎　白石□三郎　〔この面原文人名横一列〕

18　灯塔（一対）　水巻町立屋敷（たてやしき）三丁目13　八剣神社
右側右面
大宮司従五位
松本周防守久弥代
正面

保食宮　廣前
左面
願主廣渡村□□□
　添田興一良興□
左側右面
願主江戸小□町
　虎屋弥右ヱ門
正面
馬野宮　廣前
左面
嘉永七年寅十一月

19　狛犬（一対）　水巻町二西（ふたにし）四丁目1　八所神社
右側上台石正面
献
左面
大宮司従五位下
　千々和但馬守正徳
下台石正面
當村保正
　舟津丈平則□
同組頭
　田仲吉次郎
同組頭
　舟津要平
同
　田仲吉平
同
　舟津徳次郎
左面
　爲松　石工
左側上台石左面
安政二年□五月
正面
献
下台石正面
二村保正
一田□□重大
同村組頭
黒瀬平治
同組
黒瀬□太□治

20　灯塔（一対）　水巻町立屋敷三丁目13　八剣神社
右側柱右面
大庄屋
　有吉興右衛門直徳
正面
祈願成就
左面

安政七庚申二月

右側台石右面

願主　下底井野村触中

下底井野村　上底井野村　中底井野村　木守村

埴生村　中間村　廣渡村　立屋敷村

吉田村　□□村　虫生津村

〔下底井野村以下、原文村名横一列〕

正面

□□□村　芦屋村　芦屋町　杁村　古賀村

二村　下二村　伊佐座村　頃末村　島津村

若松村

〔この面原文村名横一列〕

左側柱右面

安政七庚申二月

正面

祈願成就

左面

大宮司従五位下

松本周防守久敏

左側台石正面

大庄屋

有吉興右衛門直徳

同格　伊左座村庄屋

有吉善兵衛□敏

大庄屋格底井野村□□

毛利喜八郎直道

同格中間村庄屋

嶺要一郎英改

同格埴生村庄屋番請方

土師友次郎□久

吉田村請方

副田又作一芳

村庄屋□□□請方

小野傳七重成

比木村庄屋

蔵冨籐次郎一徳

芦屋村庄屋

森正平源時

下底井野村庄屋

有吉仁右衛門正則

左面

□藤庄屋

江藤長四郎信知

□□村庄屋

矢部武七郎徳作

□□村

□□郎斎□

□□

□□大平則知

□□□

入江武平政敏

□□村庄屋
小野徳右衛門正儀
□村□□
柴田惣蔵直儀
扒村庄屋
永□源七□□
裏面
下二村庄屋
一田籐市秀七
芦屋町庄屋
江藤興五郎廣□
木守村庄屋
土師新作守道
芦屋村庄屋
伊藤彦三郎直□
江川村庄屋
柴田太平秀信
□□□□□
副田又吉一成
□□□□□
藤田源八善景
大庄屋□
小田休五郎信行
吉田村□□保
一田平藤

底井野村□□
添田与一郎□□

21　灯塔残片　水巻町吉田東四丁目5　貴船神社
右面
大宮司安藝守直足
正面
獻燈
左面
文久元年酉八月

22　灯塔　水巻町吉田東四丁目5　貴船神社
柱右面
文久元年
正面
獻燈
左面
酉九月吉日
裏面
大宮司
波多野安藝守
台石正面
藤崎政右エ門　小田善右エ門　藤崎藤二郎
〔この面原文人名横一列〕
左面

一田源吉　野中清右ヱ文　小田甚五郎

〔この面原文人名横一列〕

裏面

石工

占部要介

23　灯塔残片　水巻町吉田東四丁目5　貴船神社

右面

文久元年

正面

献燈

左面

酉十月吉辰

裏面

大宮司安藝守

24　堀川彦大神　水巻町吉田東三丁目1　河守神社

本体正面

堀川彦大神

台石正面

元治元年

子六月

吉田村

車返中

25　狛犬（一対）　水巻町猪熊四丁目5　鷹見神社

右側台石右面

元治元年甲子九月

正面

奉

裏面

一田藤市秀宣　大貝弥作督長　田原正五郎□□

同性善五郎雅光　大塲長右門信英

〔この面原文人名横一列〕

左側台石正面

献

左面

石工　吉田村　回□蔵七

裏面

貝傳四郎光助

江藤文蔵信治

同性勝五郎貞知

大庄屋格

同性小平次定知

芦屋保正大庄屋格

江藤与五郎信照